

グリーンピース(実えんどう)の需給動向 調査情報部



紀州うすい (和歌山産)



実えんどう (鹿児島県)

主要産地



資料：農林水産省「平成28年産野菜生産出荷統計（グリーンピース）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

未成熟のえんどうの実を食べる実えんどう。関東ではグリーンピースとして親しまれ、関西では品種が異なり、粒が大きめのうすいえんどうが多く出回る。えんどうはマメ科えんどう属の一年草で原産は中央アジアから中東とされており、エジプトの遺跡、ツタンカーメン王の陵墓付近からも出土していることから古くから栽培されていたものと考えられている。日本へ伝わった時期ははっきりしない

ものの、本格的に栽培が始まったのは欧米から優良な品種が導入された明治時代以降でその後、一般に普及した。

食材としてのえんどうは、若い葉と茎を利用する「豆苗^{とうみょう}」、若いさやごと食べる「さやえんどう」、未成熟の実を食べる「実えんどう」、完熟した実を利用する「えんどう豆」というように利用する時期や形態によって4つに分類できる。

作付面積・出荷量・単収の推移

平成28年の作付面積は、805ヘクタール（前年比97.3%）と、前年よりわずかに減少した。

上位5道府県では、

- ・和歌山県 255ヘクタール（同 99.6%）
 - ・鹿児島県 130ヘクタール（同 97.7%）
 - ・北海道 41ヘクタール（同113.9%）
 - ・大阪府 36ヘクタール（同100.0%）
 - ・福島県 34ヘクタール（同 94.4%）
- となっている。

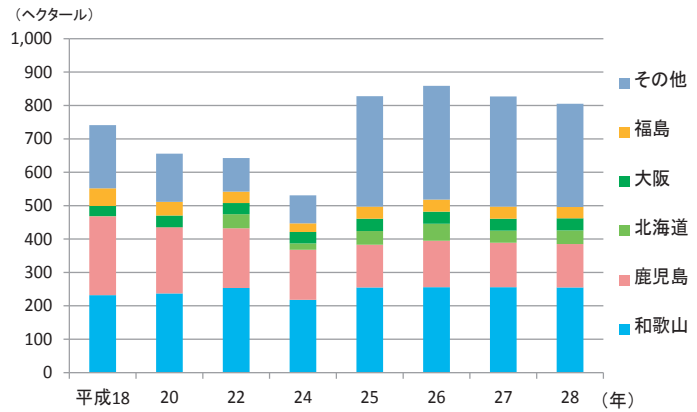
28年の出荷量は、4300トン（前年比93.7%）と、前年よりかなりの程度減少した。

上位5道県では、

- ・和歌山県 2100トン（同101.9%）
 - ・鹿児島県 558トン（同 56.6%）
 - ・北海道 238トン（同135.2%）
 - ・熊本県 199トン（同108.2%）
 - ・福島県 117トン（同 93.6%）
- となっている。

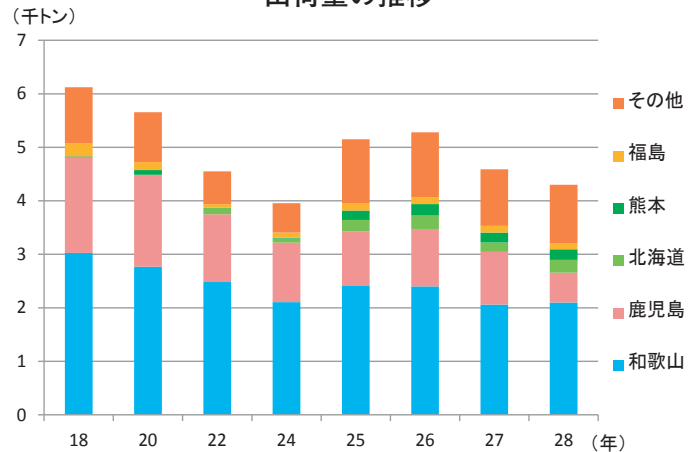
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、和歌山県と熊本県の0.93トンが最も多く、次いで北海道の0.59トン、鹿児島県の0.52トンと続いている。その他の県で多いのは、新潟県の1.00トン、愛媛県の0.93トンであり、全国平均は0.69トンとなっている。

作付面積の推移



資料：農林水産省「平成28年産野菜生産出荷統計（グリーンピース）」（平成25～28年）、「地域特産野菜生産状況調査（実えんどう）」（平成18～24年）

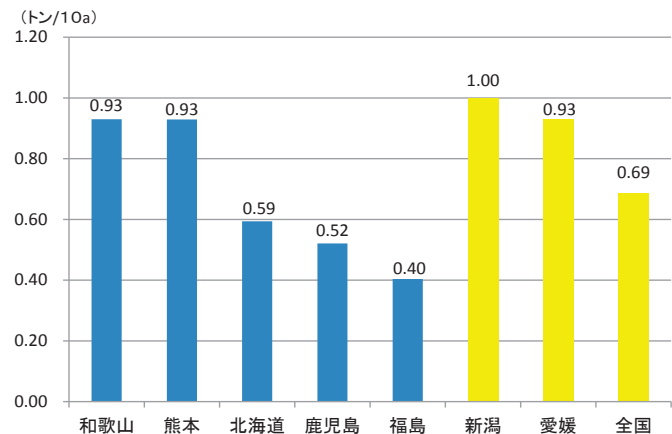
出荷量の推移



資料：農林水産省「平成28年産野菜生産出荷統計（グリーンピース）」（平成25～28年）、「地域特産野菜生産状況調査（実えんどう）」（平成18～24年）

注：平成18年は「販売量」

平成28年の主産地の単収



資料：農林水産省「平成28年産野菜生産出荷統計」（グリーンピース）

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2県および全国平均。

作付けされている主な品種等

うすいは、明治時代に米国から大阪府羽曳野市碓井地区に導入されたことから命名され

た。まめこぞうは、鹿児島県で平成25年に育成された品種である。

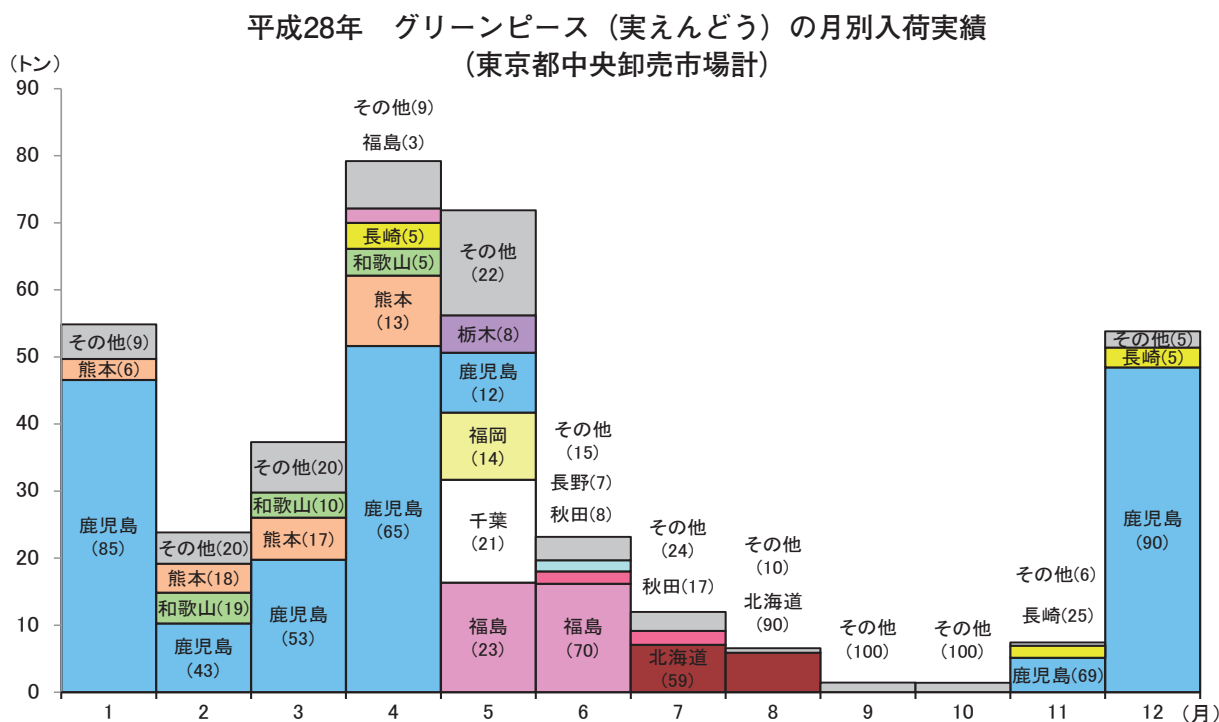
都道府県名	主な品種
和歌山県	紀州うすい、紀の輝き、矢田早生
鹿児島県	スーパーグリーン、まめこぞう、南海緑
北海道	青えんどうの西洋品種
熊本県	南海緑、久留米豊など
大阪府	ウスイ、白竜、南海緑

資料：農畜産業振興機構の関係者聞き取り調査による。

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成28年）を見ると、11月から鹿児島県の入荷

が始まり、4月がピークとなる。5月から8月にかけては福島県、北海道からも入荷する。

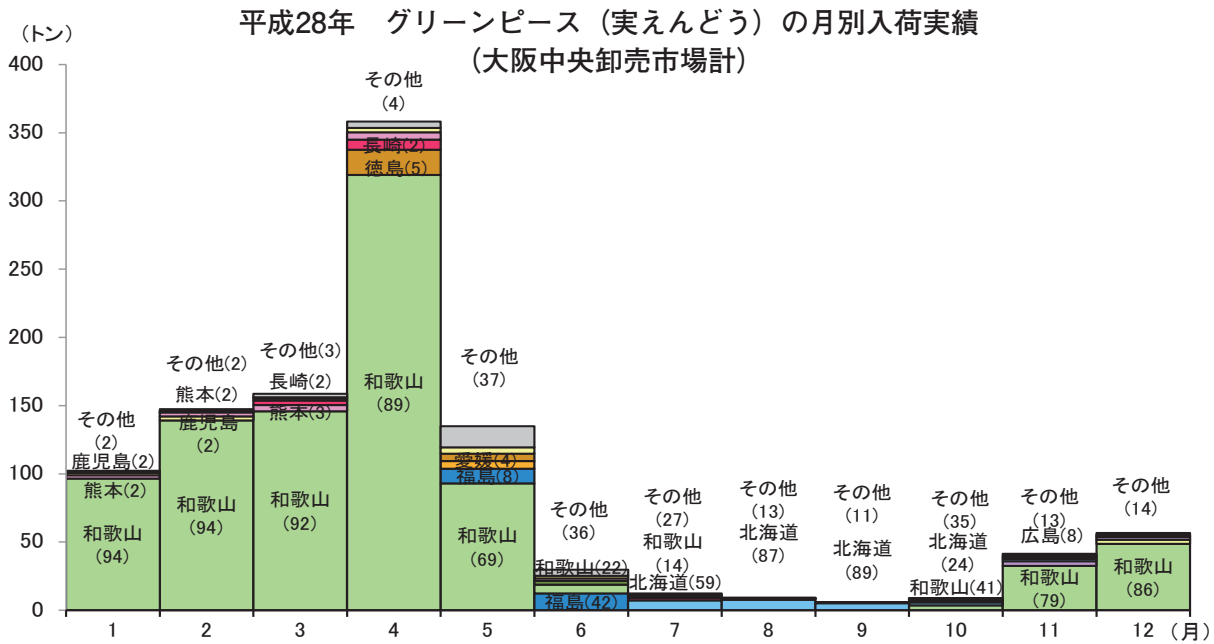


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成28年東京都中央卸売市場年報）

注1：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成28年）を見ると、主産地である和歌山県からの入荷が11月から増え始め6月まで続く。ピークとなる4月には300トン強を和歌山県

産が占めそのほか徳島県、長崎県からの入荷もみられる。6月から10月にかけては、数量は少ないが福島県や北海道からの入荷がみられる。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成28年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）

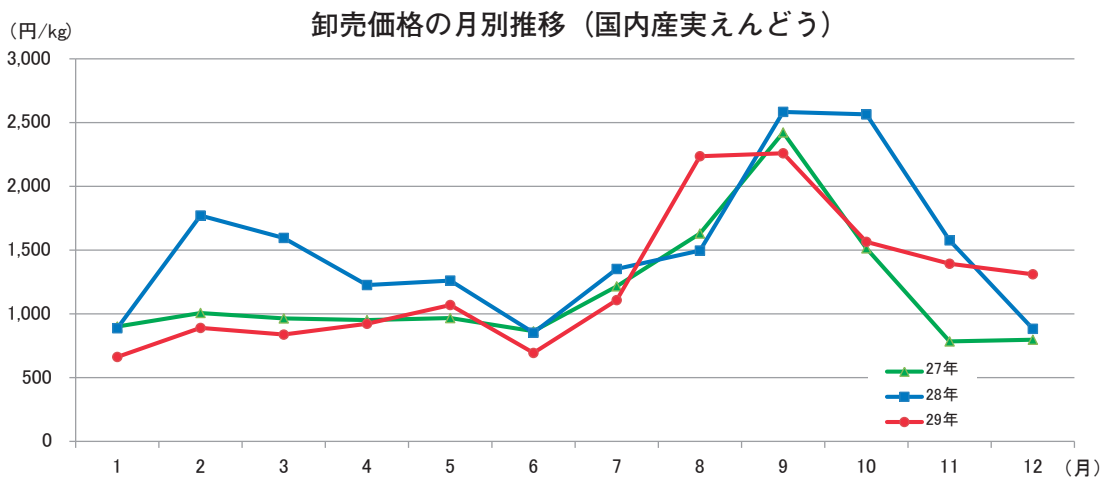
注1：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

注2：さやえんどう等を含む。

東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における国内産実えんどうの価格（平成29年）は、1キログラム当たり662～2259円（年平均1246円）の

幅で推移している。8月以降は数量が激減し、卸売価格は高くなる傾向にある。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場年報」）

消費の動向

グリーンピース（実えんどう）は、糖質をエネルギーに変換するのに必要なビタミンB1の多い野菜である。また、βカロテンのほか良質なタンパク質や糖質も含んでいる。

グリーンピースは、その彩やかな緑とともに春を告げる野菜として親しまれている。関西で

多く出回るうすいえんどうといえば「なにわの伝統野菜」としても知られ、関西地区では春先に欠かすことのできない食材である。豆ご飯として食べる事が多いが、炒め物やスープ、煮物などの彩りとして、鮮やかな緑色を楽しんでいただきたい。